

第6回 石綿の代替化等検討委員会 議事要旨（案）

1 日時

平成15年2月19日（水）10:00～12:00

2 場所

安全衛生総合会館13階 第3,4会議室

3 出席者

（委員）平野委員長、枝広委員、大野委員、菊池委員、菅原委員、森崎委員

（厚生労働省）大石安全衛生部長、寺岡化学物質調査課長、角元化学物質調査課調査官、樋口化学物質調査課副主任中央労働衛生専門官 他

（事務局）XXXXXXXXXX 他

（オブザーバー）経済産業省、国土交通省、環境省、防衛庁

4 議題

（1）石綿の代替化等検討委員会報告書案について

（2）その他

5 議事要旨

（1）平野委員長より、事務局が作成した前回の議事要旨案について、各委員に対し、意見等があれば事務局に連絡するよう指示があった。

（2）事務局より、石綿の代替化等検討委員会報告書案及び配付資料の説明を行った後、意見交換が行われた。

〔主な議論〕

● 建材の代替可能性について

（委員）「混和剤」は「混和材料」に修正すべきである。

（委員）プラント等は石綿を用いないことにより、いろいろな意味で作業者の危険性が高くなる。そういう場合には、新たな危険を招かないよう、安全対応につき今まで以上にマニュアルに含める等が必要ではないか。例えば、材質自体の問題に関わることだが、今までの波板と異なる対応等、品質以外の施工の部分で必要ではないかと思う。

（事務局）過去に石綿スレート屋根の踏み抜き事故が多発したことから、労働安全衛生規則において、スレート等で葺かれた屋根上での作業では歩み板を設けるよう義務づけているが、それらのより徹底が必要ということか。

（委員）例えば、屋根が風であおられ、ボルト等で留められている部分の劣化が代替品では速く、交換が必要になるかもしれない。そうした場合に、非常に耐久性の高い石綿の取扱いに慣れた作業者が、代替品の施工でも石綿製品と同様の強度、耐久性を期待して取り扱うことにより、安全上の問題が生じるおそれも考えられるのではないか。

（事務局）代替繊維を用いた繊維強化セメント板の強度劣化について、メーカーから提供されたデータでは、4～10年程度で初期強度の約3割低下とのことであった。用いられた代替繊維は、ビニロンとパルプの混合であり、その他混和材料を添加している場合もあるとのことである。

(委員) 今後の技術的な進展もあり得るし、現況ということでよいのではないか。

● 非建材の代替可能性について

(委員) ジョイントシート・シール材に係る「構造上の問題」は、設備の構造上の問題と混同しやすいため、「施工上の問題」又は「仕様上の問題」としてはどうか。

(委員) ジョイントシート・シール材について、「高温の流体、腐食性の流体、ハロゲンのガス流体がある環境下で使用されるものや内部の物質が漏洩し、火災・爆発・健康障害等の発生の危険性がある等の箇所に使用されるものなど一部のものについては」という記述があるが、高温でなくても漏洩、火災等の危険性があるものがあるか。

(事務局) 一部、フランジの構造上、代替品が使用できないものがあるとの指摘があったことを踏まえている。

(委員) 「今後新たに製造される機械・装置や新たに建造される化学プラント等の設備等においては、非石綿製品の使用を前提とした設計とそれに基づく製造・建設等が可能であるため」という記述があるが、行政は非石綿製品の使用を前提とした具体的な設計仕様を示すことはできないのではないか。安全性等の保証が困難であることが問題とされているのに、「可能である」とは言えないのではないか。

(委員) 非石綿製品の使用を前提とした設計仕様は設計者に委ねられている。行政が示すという発想はいかがなものか。

(委員) 技術的事項が明らかでない場合に、メーカーが使用上の注意を記載することで、使用する側の問題と考える動きがある。「可能である」は「可能性がある」としてはどうか。

(委員) 安全性の観点から、耐久性も含めて、メーカーから一部反発があることが予測されることから、説得力のある説明が必要である。

(委員) 化学プラントの場合は様々なプラントがあるので一概には言えないが、コストを考慮しなければ代替可能性が高いと思う。ただし、既設のプラントは難しい。

(委員) シール材等の規格では酸化性酸等の環境下での使用が保証されておらず、その範囲ではコストを考慮しない場合でも推奨できる代替品を示すことは困難ではないか。

(委員) 代替化の危険性を考慮して、ある程度絞り込んでまとめている。メーカー、ユーザーからの代替困難との意見の中には、安全性ではなく、成型上の問題や、施工の問題があるので、それは工夫が可能と考えられる。原案に記載されている判断が一番適切ではないかと考える。

● 代替化の促進について

(委員) 助成措置や免税措置も一つの考え方ではあるが、それに頼りすぎるのも問題と思う。

(委員) 例えば保険業界等とタイアップすることも考えられないか。

(委員) 代替化に期限を設けることが最も効果的だと思うが、期限後も石綿の使用がやむを得ないものが残る可能性もある。

(委員) 一般の作業員や住民の意識が高くなることは、別の形で代替化への力として働くだらう。

(委員) 技術的な事項や試験について、業界同士の協力が必要な場合があるので、そうしたこと等への支援策が必要かと思う。

6 次回日程

平成15年3月4日(火) 13:30~15:30